

様式 4

平成 2 8 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取養護学校

学校長 藤田 則恵

評 価 日	平成 2 9 年 2 月 2 4 日 (金)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況について</p> <p>○学校全体でいろいろな改善がなされている印象を受ける。</p> <p>○高等部生徒のアンケート結果では、教室で安心して過ごさせている、に否定的な回答が見られるのはなぜか。</p> <p>○否定的な回答だった子どもへのフォローは可能か。</p> <p>(2) 県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>○特になし</p> <p>2. 取組改善のための提言</p> <p>○「校外作品展」の常設展示を考えてはどうか。地域の小学校や中央病院の病棟などで行えば、子どもの励みにもなるし特別支援教育の啓発にもつながる。</p> <p>○防災の必要性から地域の連携も大切で、防犯については警察と連携する必要がある。</p> <p>○危機対応が必要なときに施設長が不在の場合もある。施設長が不在でも動ける体制が必要である。</p> <p>○新しい学習指導要領でもコミュニケーションの重要性が示されている。小中高各学部の縦のつながりや学校外の方々を招く機会も意図的にどんどん取り入れてもらいたい。</p>	<p>○地震の影響がそのような回答になったと解釈している。</p> <p>○担任が回答者を確認しているので、必要に応じてフォローしている。</p> <p>○今後予算執行する予定。</p> <p>○今年度はある銀行で児童生徒の作品を掲載したカレンダーを作ってもいい、啓発につながったと考えている。</p> <p>○10月地震の時には対応方針が職員や児童生徒に伝わるのに時間がかかったと反省している。状況をリアルタイムで伝えることが重要だと考える。</p> <p>○学習発表会の新しいスタイルはコミュニケーションの取組みにつながっていると思う。卒業後の姿を見据えて、様々な取組みを考えていきたい。</p>	